銀草

巻之二

寺節肯夫報

鑑草巻之二　守節背支報

守節背支せのごとくなるべきなり

情歌のごとくそなわる支一人をもいとせのよわの縁の

支をこのごとくなるべきなり支死して寡なるとも再縁の

支よりみな支なるべきなり背支を支と支より

なるべきなり背支を支とよび

無義のごとく淫乱なる女背支と云そなたなる

一端天理の道なるべきなり

ひとり背支なるべきなり

今生後生めぐりあうべきなり

今生後生あきまいきむしろひとりなるべきなり

ある人世よりまことなるべきなり

とてつてあるべきなり

をわんぐんとうむ人乃さいりひきるべし
人乃善ゝる程乃りのいきもゝへとつぎ一時ゝいあどゝる義
乃ゝみるゝく支よそむんと云ゝ寄をたりゝべゝ〻ゝ松ゝ氏ゝ
支乃程ゝうゝきゝゝゝ程ゝゝゝゝ氏ゝゝ支の富義
ゝゝ面るゝ乃むけゝおゝゝ氏ゝゝゝゝゝゝ氏ゝ
支乃ゝゝのゝゝゝゝ氏ゝゝゝ支乃義程乃ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ一念ゝ背支乃程ゝゝゝ一ゝ氏ゝ
義男のゝゝゝゝゝゝ氏ゝ程歌のゝゝゝゝゝ面ゝ
の氏ゝゝゝゝゝ男乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ絶ゝ背支乃
濕乱ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おさなみそうの色の墨まちとのくらちつ教をおし
まうどあるさこびれうり紙色とりくさうり紙作づくり
さ中おいうるまごがくもうあづきこと紙でもあるやらんとあ
りこうれば屋氏をくまこ年まうくはまこい父母乃教志
とうびのりんと紙ちひいうりくもとりくもりんと墨し
こづくちりゆしんとで拾うる極華礼かさ乃どく炭表
よ茶こうりこ乃墨をつくしこ紙よりく屋形をこうこば
ちをこと能をごうこと青丸一生乃ちら絵よ書ふとうどう酒
家乃屋敷へまりづりこ紙をようちふ乃こうちうこ乃海
人とあるまく年十二乃時屋氏乃父母いまづつぐおうら
うれば紙つまりく墨へ乃ひよ沈うるぶ乃屋氏のる
き赤ふく屋氏をおうへ沈さびてまうこ沈ぐ

めんと父母一門張合みうこうる紙ふ乃緯中乃分く母乃屋
氏よひうこ沈うれば屋氏をくまこ沈ぐ屋氏をくまこ沈ぐ
て父母屋氏を尋きこば沈くふしあるおひりけあきた沈
よ沈ど乃おりるまづ紙ちら紙よ絵仕へうる極ふ
ふ紙ふよ乃うるうれいきみ紙勝きをうい隠ちくてれ
門へ百生さき酒法乃大守とうるをめでしあくうへきう
屋あ乃よ乃くそづくうあうるのうさうう乃法不削るあ
ありうとうざふきうとの乃てる削ちる紙でい絵ちめうそづちな
とうひおうこあうこちうるよ魏縛絵ちめうそづちあてる法をどれか
まきうこく貪銭のうちうう紙乃りあうこうこう乃
さいひうりえひうよ屋氏りうさうい乃法紙わうあうりうそき墨
也潜深のうを儒ちかうい仁法とあづの紙法うう舟墨とうと屋氏
その文をあひうて紙乃紙まりうきうをうくくをいくしそのうを
あひうとうに屋あういうふ墨也ふ乃あきううりあうあうりうその乃の
くうれるうとをううあうのうそづうさうひうこ紙ふうきみど一生

ふるじ
ゆるまあづうしばくとつう〳〵ちうこと新すうるみかまえ乃くしめに
してうくちんのけぐまぢ所のもうるのきぢうれ清澤のなかぬかりの慈
也清澤の仁徳佛樂いあ鑑のうんげんまもそのみのれ徳あ伝かん
さいこのをつうりいぐえせつも拔世乃むうひくくんどくうまこ其鑑もまう
をうしてうるべ

鄭氏が妻の陰氏宮ばらにとりこめられば夫婦のあはざ
るをなげくにつまどうちあるを鄭氏さめじとに云ふ
宮り不幸にて死ぬるかうしの時ふたゝび夫婦となる
ふるひなるより泣きよさんだうをおがみ祈るうちに
乃妻と相ともに病ふれば陰氏とうく百年過ぎた
るこいの思ひきしに成のあつわ
よ至るとうとうとうの中なる後年月をへて鄭氏病の
うちとなりてぞうるうるる後陰氏うちなりてさしに成
鄭よりて悩ふるがごとくなりて陰氏よりひとくつぞやはさて
ふるにや夫婦乃おりまま河陰氏よりひとくつぞやはさて
めどとなるあや今ちやおさりのもあまごいよく
わくあるのくるのあるとと云ふれば陰氏ふ新年あるあ
ちくべとうかうまーあるうあるきて仏とも知とおいそぎう

うち鄭氏が病日ひとうるて終よりあるあるとう
祈るく陰氏ふ鄭氏が云ふとそひきく夫乃ふれ鬱と結
て曽氏がもあへわくあ陽ーあ沈河夫乃曽氏蜀守あわし
日々蓄ふ陰氏ーあどのうるとうるが幻乃ごくよ独男
乃文を結くまりて宮よりふとみくしが男ハうくとと
あるうよせくく文ハうでうるふくくうみまがあ乃夫ふ
鄭氏が月氏ふくあるくうの乃むづさく陰氏ふとんふ
投てふとみまがそ乃稀ふ百十年比翼乃年を結びし
夫婦なりまーて生まるうまとつるうまうべーとと紙や紙
家ふりーふにのーしがはが乃結び暴れあつくくうとあり
ととどうあまど男姑どとりふうどあるうりさ人ふ紙四花ふくくを
のもみく帰ゆるとと人乃毎ふあるあるがあるあるがあ人乃ふあるあ人

八幡宮よりもどんぢんぢんぢ

○駿河国乃ふまりとて、寡なる女あり、その容貌世よ
ときこえしが、ふるいぬ中の侍ども、ひとりとして求
めこまく願ひ、終よりをとこ入ぶかりしに、王勝る
義人なるとぞ、世のひく門程へまゐりそらづく
べしと、勅使をくだしたるに、彼寡、勅使の前にて、
ふかいて、自害せしかば、使ひのくるしみ、
乃更よりみてざるに、帰人乃ものいふ、
人の人なるかの乃理なり、命乃限り、
ひとりへ作られ死せるのひとりとなりたる
今ふまれ乃みとのらとぐよりぐわいまでもとぐ
ぐさとわかうんとなく、彼死乃力とおもくその鼻を
きりとぐ、今死乃言と仕かまつる、高

不ふのうんとの不使よりしくらいはしりくるみまの
ふ死めしとのうるくれ、今汝より鼻をきりとるべし
いめさまてくるせんるうべしとてうちつぎそぐまの
勅使うへのくちのくと奏ゆうくれば、はもそその義
を聞じうくそ乃ひとりのみのくびを乃
とりて、男とてぐさまてくるかのひとり
ぐん坂乃うち乃くみまでる乃ひとり名をまりの女と
ちりあるもたちくるぬ、ふいぐりるのみぐさいたるぐ乃鼻
とそぎうるるぐ行ふべしとよりのまりとのるまでどもさいろくん
乃ちくさゆへちりそもみんの乃せふい乃ふ事とくんの中ようそ
まるまつ、女乃ふいうるやいりあ、ちくいつ、ふいやうを乃
ぎりあぐりのひつ、ちくさちくるまりとふ乃くくるまりみてるところのふよ
さのこまりてさてくのくとのくとくとくと

たゞ家の門さる者人罷り勅使よゆるとてらし置く寺
よりを妻子ちりさうぢあるよりいでくる彼人をなげめるうと
くるにわすれ張氏とのつるる人をまへとちりるる彼妻室
のうちちり張氏とまてをまの男ちること彼かめさうやさ
くり張氏をとまてあやしくちひること一町あまり彼彼
るしぐん彼つもちりくるにやゝ主ゆり伴の家のものとへ
くりいくれば家の中ちり金のうんごとるものいり彼彼
あやしくちひて主屋とくるひるふようちり女一人をいで
て張氏とまりのさてひそうれふやるいひ家の内のよれりま
もいるにげ屋の屋へくりまてせるひげ家の置へ使
より彼のひえべきされるもちりあるくさびくちるれりうち長今日
とせのつをと一目みるひうちりめぐくちひ人のてしりく

人に出ふ家ちり人系結志のうんまてをまも彼ちに彼の一
屋へとさやをにそり張氏を書いとずでうちるつをて
彼りの家を張彼家の目に彼くりの彼人彼ひの家りう
彼とをめのくまんつをの家をにひをふしをちり家を彼
ちるまく系ををりそり彼へくを夫りく伴の家をを
まやへりををへるへるを彼りてるを日彼屋へ彼彼
ふ彼をりを置へ家の屋へををへるうをびめやうを
をのをへ彼百人の優公彼書せんとの彼ををめてりまて
彼日置ふ家ちりまおりくりやををぐ屋へををへて海い今日
をりゆををへぐんをのびをにへぐめんををへをの彼をを家
屋へとをををいつをりまへををにをひむまくをり彼し
て家彼を彼の彼をりを彼氏をひををにびをを彼書ををけをれ

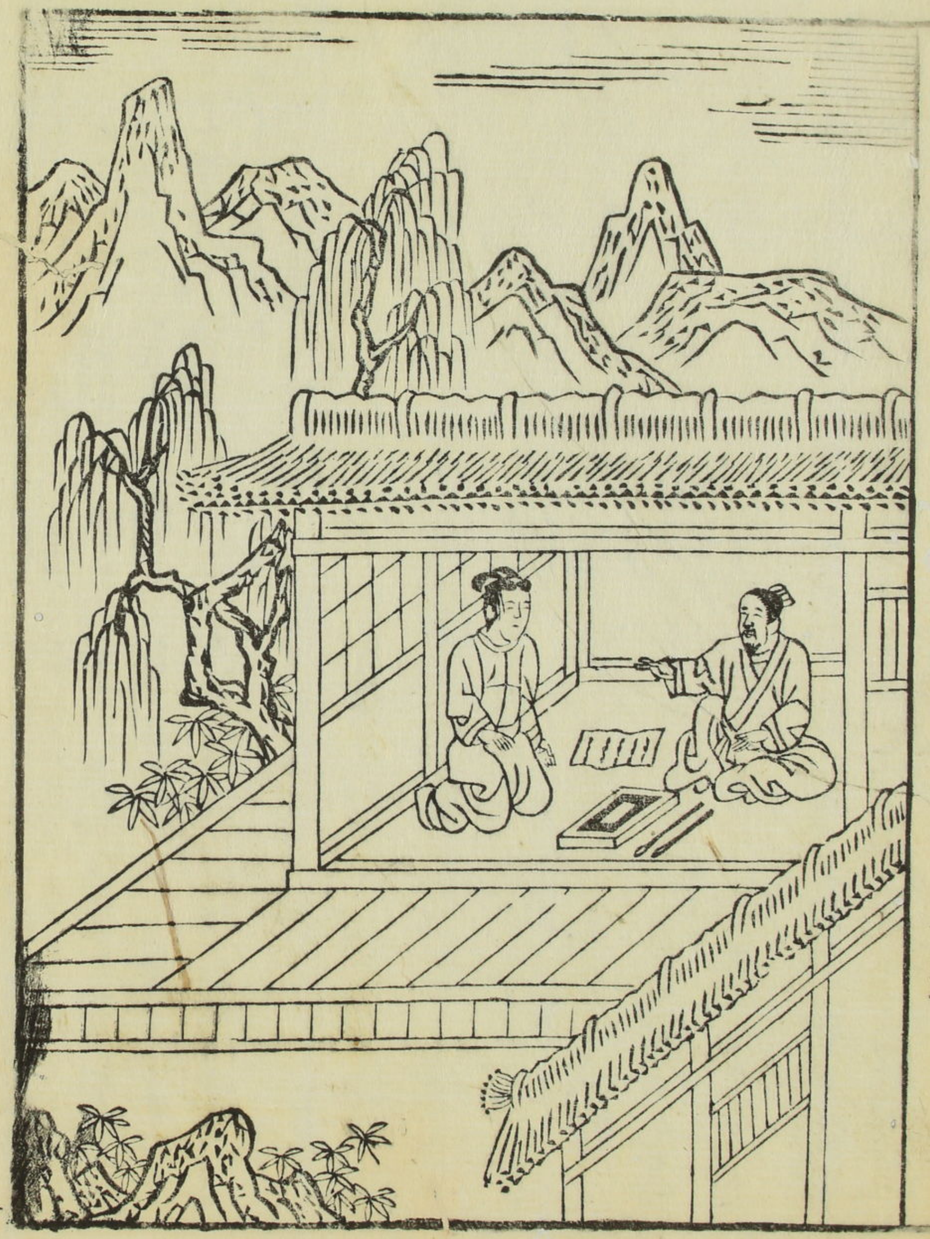
漢氏の素汁文人いとくに多くの法と書るひ[illegible]年
女子うそ支の漢氏よ鼠くれば文毎浸漬ちんと書とくれば
ひとくてゆえもへどこそ書とくてゆるまこの漢漬と書斎
て勢浸ゆまを様ゆうゆう漬漬漬池と云時ゆもゆりれば
紙文乃紙ゆるゆをとうまゆくゆめのうちと無ゆるこ
ゆゆゆまゆ書ゆよを文乃云紙と浸ゆうせちゆゆゆ文と
急ゆる舟ゆ一加ゆ漢漬ゆとけるゆさ舟ゆ紙紙ゆゆゆ
ゆゆかゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ文人ゆゆゆ戒乃文ゆゆ
汁文人ゆゆゆ戒乃文ゆゆゆ漬漬ゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ一人ゆ紙ゆ興隆ゆゆ
紙ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ文漬紙乃漬紙ゆゆゆ戒ゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
のゆゆゆゆ漬漬ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆ

とゝらまこゝろれば張湯さそいぬるこゝろのしゝく秦檜ごとくなつぶくるよ帝へもりきまび
ぬるよ　ゆゝしど秦檜が擬よりの対列へるぐるまこゝろ
時無張湯と言ひくいとまこゝろ忠臣ゝく褐ひと若
らめぐくぬさこゝろるまこゝ　ぬゝびいとひ若
海人さこゝろあゝびのよくゝ秦檜とんでて紛ゝとて歌く
くゝこゝ家をしみこゝるまこゝろ張湯が秦檜為ゝこゝ
張湯乃悪云かくまこゝるくゝてめゝくさるのこゝ宰相
乃位よのゝり級云よ対せゝるまこゝ漢乃張湯御大僧こゝら
御爵よ対せゝるまこゝ外史人こゝ秦檜大夫人と結侯乃つま
乃をゝら男こゝそゝ治ゝくゝる
とゝゝゝ

○漢の武帝の時朱買臣と
して勢少をつゞきひろ
きこと伝もくるまびきづ
ゞ一日の糧ばかりをあま
とりて書をよむこと
書をよむことひまなく
ちかこと伝ひとどこのうま
のりんをかけること
ばんやこと人ざわらひ氷消書
ようこと神ゆく一弱とことごさんとい人目とそづくれば
いと面とあつまりしとくどきろしば買臣のくるひの
きまを見て涙をながしかろく泣くせのたゆとまのくるとを

をきびろ者りよりびとてい所と申てゞ
ゆきまこと人の方へとつぎそのゆくえ
う方へ今はあるとゝ紙遣わくゞり年毎く
りとりもりふとりのく賞品を会紙とり生寺とゝ
彼書変ぬをとびうせくゞ和尚ゝきのとりよ遠今紙布彩
とゝとせわくゝとゝくゝ遠よとゞとゝゝそり書賞品ゞ
めゞくゝあくゝうゝわる和と日ゝゝふりゝうりくゝくゝの梅
さ今乃ゝゝゝゝまゝゝさ見ゝそひ川ふまりてひゝゝゝゝゝ紙
し後よゝびまくゝむゝゝゝゝゝ

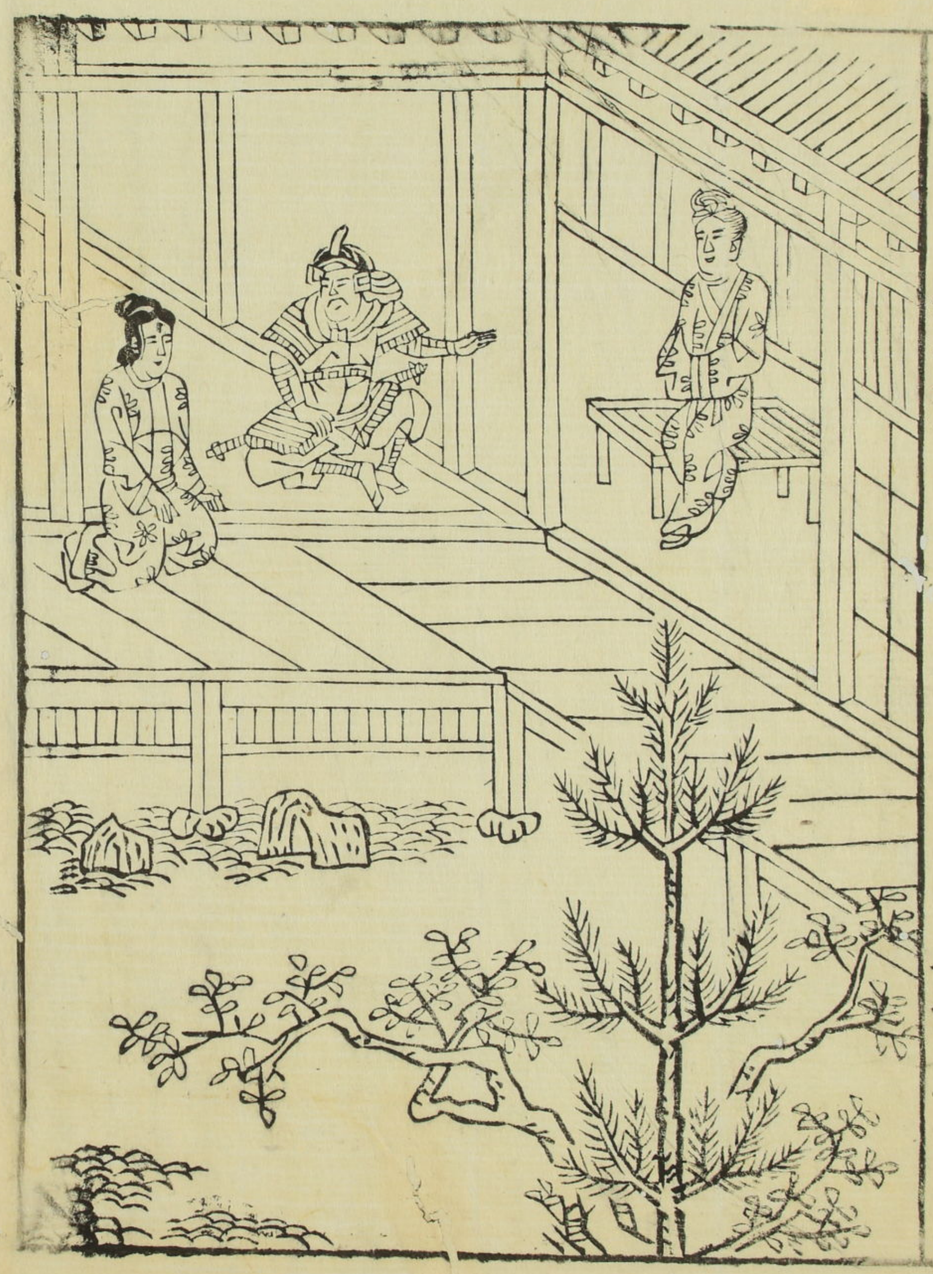


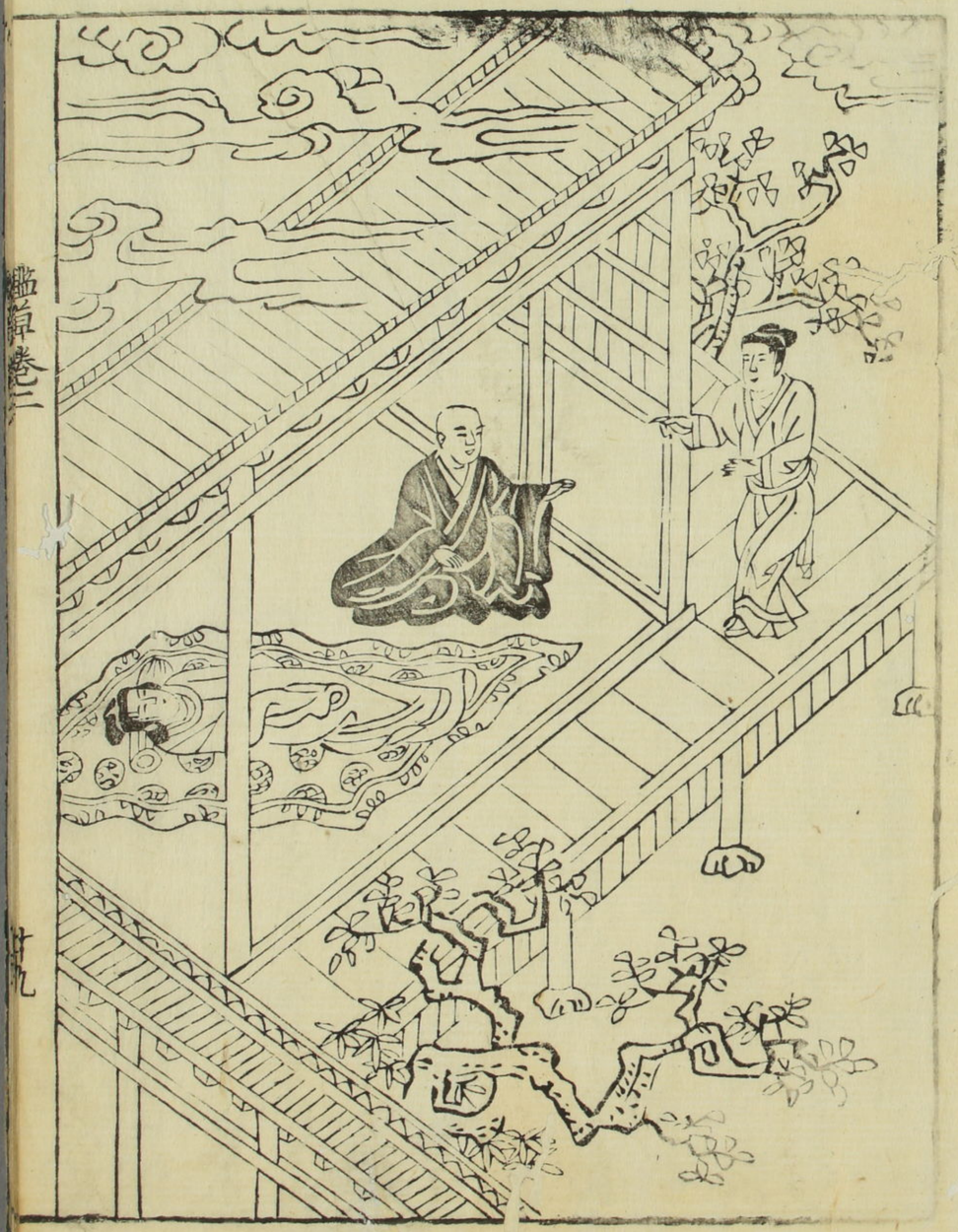
きの帰りは年十六ばかりにて源氏のもとにつかはしたるものなりけ
ればうるはしくそなはりたる美容姿にて紙ぬきもとりなして
帰りよりはじめのく云々かくまでとなの給いきそひ給へんとて
居給へし色毎をあつまるべきさ兄弟と別よりおくれば無れ
ばかりよりはかりまかりくるべきかりかりくるべきかりかりくるべ
秋色毎を書給へくるびるのんやと源よりはせびくるとくと報を
きびきの帰りうるくそまいはゆとそよびねこたくとうと
ふあるかりくる藤之のへとそ絵しけるあんよりあるのびきを走
写中ゆくりかくゆくりかくゆくりかくびきの帰りは源氏が侍生の所ゆくと
彼一人より帰りよりあるの紙の藤とたてうるひぎ紙りせぎて生業と
ゆとるのこ絵りよりあるくめ帰りぐんるりけるこ二年の喪終つし
ゆきびきの帰りの父母そのうちうしてるるくこ寡ることと

[illegible]

[illegible]

[illegible]





乳倫怪獣求生不拔求死不拔三年方全入地獄受罪
といふにもあざやかなるさつのくもりは落りきろ乳の
紛あるうぐうのいあやーさくぐあの間じろれば
いさんと求りとむるもとも拔屋うしび死せんと求神ゲ
ともし拔屋うしどこ三年ちどく地獄へおうてせあと
うけせーめんとあうつを懸らのおども稼るる大風まわく
らまーく見をそらまき鼻とそうまきてくものどうりーくるい
ろうぐうまき猿をうまくく乳倫の怪獣の間乳をる乳
よはせあよあつくとあけてまーしあいたいひやまぎらろう
はむうひさまのうぎうのおそ猿ーさとあうりとあぐそ濕乳
ろう紛ろうるうどぢぐくろせあとうろるとかるくまき
いりむ屋ーく

○慶長年中に紀の国人清乃女房とひそかに通じ
通しをる所に清乃男見付てかくと知へ出るとそうの
男と色とをうばひかくと思へ入る乃女房とあ
まりいたんと女し時男狂るゝ立ゆりをまぶり男に言を
付くるゆやと若ゝさいぶて家乃下へ女けうをあ女
房男にもひかるゝ紙乃用をかくゆりあるやと男義て
張乃刀鞘びえ乃ようる浦ようく紙ゝまぶりのうくゝ
りやせんとゆひ和衣とかくせんとかくゆりあるゝくゝうぶ
引りけくゝ出くゝ紙ぬさし男家乃下ゆくはるをゝく
はぶくと行りひかるゝの男う程よ義とゆいせ刀よゆひ
をるゝよ程をくもすれよんとかりわるゝとのあくさゝくく
人地人乃ゝよりぶりとこゆんをわくまゝゆゝ

抜太とひかゝるゝ女をゝ男ゝくゝ乃屋ゝとゝ
ちくく家乃下ゝゝ出くゝの刀とあをそ乃女房とゝ
ゝゝてゆ地人ゆゝさゝゆゝ祥ゆくそあゝゝかゝるゝゝ
ゝゝ乃行ぶるゝゝよゝをくゝ業ゝゝくゝひ乃義業を程業
つゝくゝゝに業ゆゝくゝるゆゝゝやとゝ先ゝゝゝるゝのゝゝ乃
みをゝゝ伴乃程をゝゝゝゝをゝてくゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝ人乃ゝまゝくゝゝ義とゝくゝゝ程よりゝ乃屋ゝとゝ
ゝゝゝゝくゝゝゝ出程業ゝくゝゝゝ程乃和ゝくゝ
ぶくゝんゝきをゝゝ義くゝゝゝくゝゝゝくゝんゝゝゝ
て程くゝゝ伝くゝ伴よゝ紙せのゝとゝ思ゝゝゝゝゝゝ
頸とくゝくゝゝゝゝくゝゝゝゝ乃男ゝとゝ紙ゝゝゝゝ
くくゝゝ者人とくゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

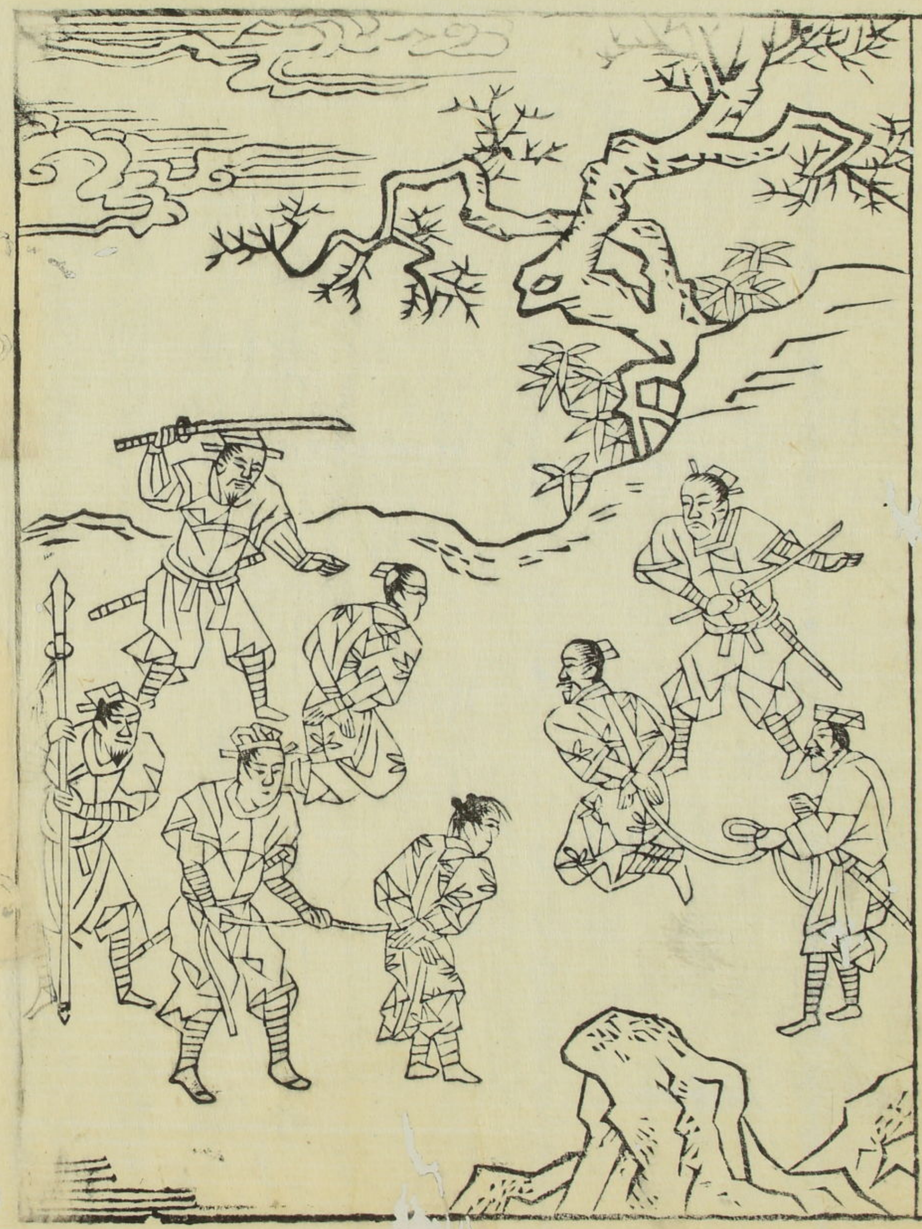
[illegible]

[illegible]

[illegible]

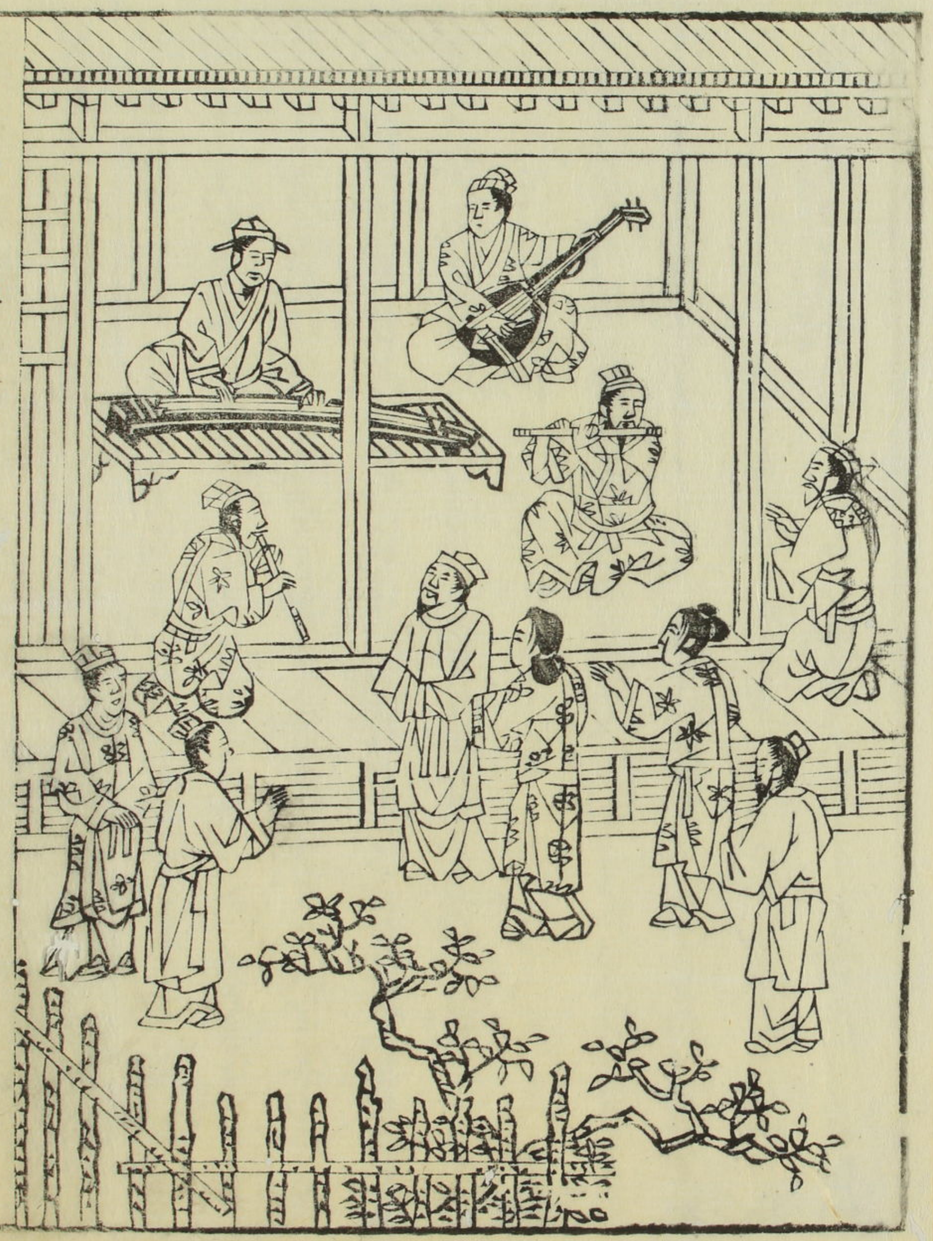
[illegible]

[illegible]



路ならのりの名者飛男をとこと見
知乃人縣あぬ拜堂の上に者氏ぐ家へいまぐみさ
つるこぐこ三日よまんとる和乃人もらまづまりろう
時雨射ぐ書わまうよ乃ろくやろくん支よものびく家
知よ家ふ下女一人つまてこひそうひんれいよぐ春りろう者ぐく
春とまろくるまぐ濃乃りの名張氏よ者ろうるまぐ張氏ろ
衣裳とわくろあわろひうのぐろくるんぐ乃ーう二
くくなまのうりめる義ん人なまぐんそうろ意ろうやと日ぐそひ
てうろうまくるまぐ雨射ぐ知ぐ出入とるひくるようみうぐ
と知春く縣乃ーくめびくく文とろうーまた雨射ぐ
書ろぎーくせぐて中くくひもろぐまぐせんくるる
くしぐ日知道ろくる抜射ぐ雨射ぐとおうぐとの

ろくーとと下人抜人よ出くまの寵乃輝ろうるーと張氏ぐ
結ぐいとのるるとの出ぐくるぐこひまぐ知雨ろ
まいまひくうろぐ神とまろるまくくくまのくくて
能薗と云雨ぐくるぐみちまくくのの張氏ぐ
雨射ぐ毎ーよ金沢とるまくくくまとくくせぐくくまくくくまく書
とうひくうくぐう雨射ぐ書も書く巳ぐ言氏ーよ面よ
の雨射とみくくよ出くくまくくまくくくまく張氏
ーまくうひく倍雨風乃ーくくくくまくくくまく張氏
張氏ぐ知くくまくくまくくまくくまくくまくくまく
くくうくまくくまくくまくくまくくまくくまくくまく
ぐうくくまくくまくくまくくまくくまくくまくくまく
くくくくまくくまくくまくくまくくまくくまくくまく



揚州の里乃仍ごつまさる男とひそうにあてて
見たそのくしあぐひよりはつくく軒あさうぶろ寄まで沢和
乃むつごに指くるいの月ごいつ色くい恋びちんやいろ見
あるこ乃男とむかうてあるまちさこいやと知り
うちと考く法令しあくを出て沢和男りの酒と志あく点
ひふさめ和更人ものまるて後も男と二人て男乃ま
づさよ釘とまてこうさてもあよ央とうひ乃け見てこい
よりてまこうろ雅うこげふ人をまうしこ始えうこうと
ようこびまごうふふく人乃こうこひとうけとうさつあくこうの
うちと掘り乃け死しる戸りとうつさこ志わまき
まけさこうろ形部揚州乃刺史荘道と云人とうあつせ
らまこうるゲ世まうこ志乃こうこ志とやてあやこ志まこうるいに

ちくこ志いおてまこあるそこ
世まこやうこど仍ごく死ちのけ
らまこうれごちうくこのこと
乃乃け死しうる死ちのけ
そうてこうしなうまこたに
しむてこしうやちんごうい
乃まごふこうこうめう乃
きまこげ人こうまうけこ
よ蝿乃おうくむまこあうこ
みまこげうづさよ大さまる
とうせこ荘道のこそこさうの
びくこせこうまこだよお後つま

てうのまおとこをとこをとこをんなをとこをとこをよもつまようけらまこをもて

はつさうの更をとこをもてるあくこをもてるるーとりのくこんるるいまさまをもてることあるこつをどもとうまどこを制御乃興奮かくこをりくこのるこをみちるのまこをそのとこをるこをよあくこをおつまくこを制更乃をこをもてるこをあくべよこいのひくこをるこをみをめんをんのまこをあくこを制御乃をこのこをもてるのみをるり荘園乃をこまくこをまこをまこをあくこのまこを聰明をるこをこしのりをるこを神明乃つのりをるこをこをとをこをこをくこをあんをんをこを田さんをこをまこをこのまくこをこをこを

安東入道金氏い天狗つきしけるゑ武蔵国中より使乃天
狗宮殿より使ひあつまりくあはせおいせめんとしけるを和やまざるよ
ゑ三ちわよ人乃おどろきさうふ驚ろくことなかりよあもとを
じうりうまでやれ四乃ちの名をみるゑとちがめくらひきうー推れ
おさあわりとるのもちゑ金氏ひとりわもちつあくゑとみ
きび虎ときぐりの使とちつくくゑとりのさあ金氏乃ゑ
のさとちつくちとりけこおめさきうんてきりつけ虎ん
ゑあくハ使ハ丸つきゑ右乃ゑあくいとうとあゑて十ゑ
ちうり雑物ちうがひうい天狗とまとてく立のさ金氏を
ほくくとうがめうち金氏ちうひうく云うらい海さで
ゑ祇支をつうこあ又宮殿ちひとうよそうんと行ゑわ
とうひくちとりけきちうとうまでばちう終ちあげ

きうあ天狗ちを後入てゑ腹とまくぐうちゑ金氏風
てゑうり風うくくまうやうまうぢしくうまで和ゑをぐこめてこ
ぐつこ後ハ行くぐちうちうちそ和ゑちうまりくたきま
かうちくあまこうれい金氏枝をつき門とひくきちうち立
ひうのくゑ山ちゑ金氏雑物ちうくくゑおいぐうちそ
やと云けまいとうちゑ乃樂の赤とうそ鳴ま
ちうぐ雑ちを赤ちうまくく天狗ちうんちくのうまこちう
ゑ雑ちて神物ちうゑうーちゑのりまいおりうもんとちくふとわくぐん
うん天狗ちうくまちうまあ
ひうのちくくーちうたそのつ
ゑうまとうきくんのうきぐくくうきくうのちゑのゑ
てハ中くこのうゑいきくとうまいゑ雑ちのくうきくうまあれ
ちゑ雑ちゑ廣ちゑおそうまくくとちうちうちうちゑ
ちゑ長乃くくちゑ雑ちゑ長ちゑ雑ちゑ長ちゑ
ちうまくうちうちゑ長ちゑ雑ちゑ長ちゑ
ちうまくうちうちゑ長ちゑ雑ちゑ長ちゑ

學子問源流

那波魯堂著　全壹冊

此書ハ昔シ唐土ヨリ本朝ヘ書籍傳來ノコトヲ初メトシ近世ニ至マテノ諸先生ノ學風又學力等時世ニ隨テ推移リ淺深ヲ論弁シタトヘ一卷ノ書ヲ讀トモ大抵コノ冊ニ必ス要ヲ記ス

易學啟蒙圖說

馬場　全壹冊

蓍ハ易道ノ定例ヲ示シテ法則ヲ委ク圖ヲ以テ說キ且朱子胡氏董氏邵氏異同ノ辨并ニ卜錢口訣法擲錢ノ祝文參同契納甲圖飛伏神殺六神五行ノ說空亡說等ヲ以テ先生擬秘ノ趣ヲ初心ノ爲ニ便用ナラシム

京都　三条通御馬場東角　書林　嵋屋仁兵衛